

こ くり ゆう だより



大阪府立桜塚高等学校 3年 永井義人 『一番桜と白のお返し』
貰ったお返しを手に、早めに咲いた桜を眺める情景をイメージしました。



今後のイベント情報 ※場所の記載がないものはとよなか国際交流センターで開催します。



世界とつながる交流カフェ ～インドネシア編～



4月5日(日)14:00～16:00

インドネシアにつながる飲み物(お菓子付き)を飲みながら交流します。インドネシアの民族楽器であるアングルン体験やヒジャブ体験(女性限定)、「インドネシア文化を英語で聞いてみようコーナー」などがあります。申し込みはいりません。お気軽にご参加ください。

参加費：無料。ただしドリンク購入の場合は別途200円。
場 所：庄内コラボセンター「ショコラ」1階カフェスペース
(豊中市庄内幸町4丁目29-1)



多言語スタッフのイラさんもお待ち
しています！

【報告①】12/19(金)・1/9(金) メディア・リテラシー オンライン連続講座を開催しました！

今年度のメディアリテラシー講座は12月19日、1月9日の2日に渡り、オンラインにて開催しました。両日あわせて、のべ60人の方々にご参加いただきました。

12月は「メディアと人権～フェイクニュースを読む～」と題して、文京学院大学教員の登丸あすかさん、京都府立大学教員の田島知之さんを講師に迎えて、ネットの情報と接する際に注意すべきポイントや、メディアとの付き合い方について、グループワークを交えて考えました。メディア・リテラシーではマイノリティ市民（社会的少数者）の視点が重要視されていると説明をうけたあと、テレビやソーシャルメディアの倫理基準を確認した上で、ネット上のCMを視聴し、ジェンダーの視点などから気づいたことなどについて意見交換しました。

1月は「メディアにおける差別とデマ～外国にルーツをもつ人々の経験から考える」と題して、沖縄大学地域研究所特別研究員の田口ローレンス吉孝さんから、いわゆる「ハーフ」や「ミックス」と呼ばれる人々、そして外国にルーツをもつ人々が「いないもの」として扱われてしまうようなメディアの現実や、彼らに対する差別となるデマやフェイクニュースなどの問題とそれらの影響について学びました。デマや差別をメディア上で見聞きしたときに自分にできること、フェイクニュース・デマを信じ込んでいる人との対話のヒントや、フェイクニュース・デマかもと思った時のチェック方法・アイデアについても具体的に紹介していただきました。参加者からは「社会がどんどん分断していくような感覚がありとても辛かったのですが、対話することを諦めたくないと思いました」「提示していただいた様々な調査結果は、とてもわかりやすく、このような着実な研究や実践は重要だと思いました」など多くの感想をいただきました。

ネット上の情報が大きな影響力を持つ現代において、情報を読み解く力や、よりよいオンライン環境を作るためにできることについて、市民と共に考える場を今後も作っていきたいと思います。（協会職員・山本愛、安村梨紗）



第1回講師の登丸さん



第1回講師の田島さん



第2回講師の田口さん

【報告②】1/10 (土) English Day マレーシア編 を開催しました！

1月10日（土）に、英語を通じた国際理解プログラム「English Day ～マレーシア編」を開催し、34人の方にご参加いただきました。

講師のナディア リズアンさんの「わたしの名前には名字がありません」という自己紹介に、「え？どういうこと??」と冒頭から引き込まれる会場（マレー系の人たちは、自分の名前+父親の名前、という名付けをするため家族で同一の名字はないそうです）。そんな名前のお話から始まり、マレー系、中華系、インド系そして先住民が共に暮らし137の言語が話されていること、ムスリムが多数派であるけれどもイスラム教の祝日だけでなく、クリスマス（キリスト教）や旧正月（中華系）のお祝いも祝日になることや、マレーシアの様々な民族の文化が混ざった“ナシレマツ”という料理の紹介などもありました。お話の隅々に民族的・言語的・宗教的に多様なマレーシアにおける多文化共生社会のあり方を感じることができました。

このほか、大阪・関西万博のマレーシア館に携わっていたナディアさんから、万博で毎日披露されていたというマレーシアのサバダンス（バンブーダンス）の紹介もありました。

最後にはプレゼント付きのクイズ大会もあり、大盛況のうちに終わりました。

（協会職員・山根絵美）



「住民がゼロになった町にて ～そんなに急いで、どこへいく～」

協会事業（哲学カフェ、プロジェクト“まんがふえ”等）に参加していた辻明典さんが、2018年度より故郷である福島県南相馬市に戻り、教員をしています。辻さんからの福島からの便りをどうぞ。※東日本大震災から15年目をむかえるにあたり、今回は2026年2月号、3月号と連続コラムとしています。

「見えない」「聞こえない」「感じられない」といった、「～ない」と語られる否定形の中にこそ、本質は見え隠れするのではないだろうか。拙稿を綴っているのはまだ二月。もうすぐ福島第一原子力発電所の事故から一五年の月日がたとうとしている。一五年たったとしても、放射性物質は見えないはまだ。失われた故郷は、二度と戻ってこない。

昨年の四月から、浪江町をよく歩きまわっている。路地を歩けば、主を失い、草木に侵食され、今にも崩れそうな家屋が並んでいる。見えなくなった、かつての町の姿。聞こえなくなった、路地を駆け抜ける子どもの声。感じられなくなった、人々の温もり。「嗚呼、こんなにも変わってしまったのか」と、ふとした瞬間に、悲しさと寂しさを覚えることがある。

三月が近づく度に「もし、原発事故さえなければ」という考えが頭の中を駆け巡る。

もし、あの事故さえなければ、この町に住んでいたはずの友人と再会できたかもしれない。

もし、あの事故さえなければ、野山を駆け巡って山菜を採り、川で魚を釣り、自然の恵みに感謝していたと思う。

もし原発の事故さえなければ、助かっていた命があったかも知れない。その人と、どこかで会っていたのかもしれない。

そんなことを考えながら、夕焼けがあまりにきれいだったので、ふと写真を撮った。阿武隈の山々に落ちていく、この美しい夕日。織り成される景色のただなかにさえ、放射性物質が漂っているのだろう。拡散した放射性物質は、日常の風景のなかに、見えぬままに溶け込んでしまっている。この色のないものは、時に命を傷つける。

「原子力あかるい未来のエネルギー」という看板が、福島第一原子力発電所がある双葉町にかかげられていた。老朽化を理由に撤去されるものの、人類史に残る原発事故後にどのような「未来」を描けるのか、私たちは過去と現在を往還しつつ考えざるをえない。

この看板が撤去された一方で、福島県における官民のプロジェクトには「未来」という言葉がつけられることが多い。しかしながら原発事故の影響を受けて避難指示がでた地域では、いまだに放射線量が高い地域が残っている。わたしたちは将来世代に、放射性物質によって汚染された土地を手渡さなければならない。「未来」とは、負の歴史を背負ったうえでの未来でもあるのだ。

ヴァイツゼッカーの言葉を引くまでもなく、「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」であろう。福島第一原子力発電所事故は、人類史に残る大きな出来事である。「過去」を見つめ、検証することを抜きにして、「あかるい未来」など描けない。だからこそ、原発禍において「未来」を考えると果たしてどのような意味を持つであろうか。



【報告③】1/24(土) 久しぶりに新春の集いを開催しました！

新型コロナの影響でしばらく中断しましたが、6年振りの開催です。



ネパールの若者のダンス

当日は松本理事長の開会のあいさつに始まり、インドネシア、南スーダン、タイ、アメリカの領事や領事館スタッフ、長内繁樹市長、井本博一市議会議長からご挨拶をいただきました。また、豊中市や大阪府、議員（国会、府議会、市議会）、地域の多文化共生や地域福祉に携わっている方々など、100人の近くの参加がありました。内容は2025年度の協会の取組についての報告のほか、参加者からのメッセージ、ネパールとインドネシアのパフォーマンスなど盛りだくさん。ダンスを披露してくれたネパールの若者は「緊張したけど、楽しかった」といつもとは違う雰囲気の中での出演でしたが、自信になったようです。会場は、最後までわいわいと話が尽きない様子でしたが、様々な立場や活動分野の人々が出会い、つながっていくことで、多文化共生のまちづくりを今以上に進めることができる、そんな可能性を感じた一日でした。（事務局長・山野上隆史）



2025年度の協会の取組を報告しました



フロアは最後までわいわいにぎやかでした

2026 3月の事業開催カレンダー

●豊中市で暮らす外国人の数（2026年1月末時点）
8,680人（前月比-27人）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
						01 貸室抽選会 がちゃ 庄内
02 もっと相談	03 おやこ 相談 こんばす	04 休館日	05 千里 木ひる にこにこ 相談 つながれ	06 外国人のための 消防署見学&防災講座 14:00~16:00 金あさ にこにこ 相談 こんばす	07 どあさ 相談	08 がちゃ 母語 サンプル 庄内 たまりば
09 もっと相談	10 おやこ 相談 こんばす	11 休館日	12 千里 木ひる にこにこ 相談 つながれ	13 金あさ にこにこ 相談 こんばす	14 どあさ 相談	15 がちゃ サンプル 庄内 たまりば
16 もっと相談	17 おやこ 相談 こんばす	18 休館日	19 千里 木ひる にこにこ 相談 つながれ	20 春分の日	21 つどい どあさ 相談	22 がちゃ 母語 サンプル 庄内 たまりば
23 もっと相談	24 おやこ 相談 こんばす	25 休館日	26 千里 木ひる にこにこ 相談 つながれ	27 金あさ にこにこ 相談	28 どあさ 相談	29 サンプル たまりば
30 もっと相談	31 おやこ 相談					

◆赤色で表記している活動については、活動内容を変更している場合があります。詳細については、とよなか国際交流協会へお問い合わせください。

センターが主催する定例事業

月曜日	●もっともつつかえるにほんご ※ひらがな・かたかなが書ける人が対象 ●外国人のための多言語相談	10:00~12:00 11:00~16:00
火曜日	●おやこ(千里・岡町・庄内の各図書館で実施) ●外国人のための多言語相談 ●学習日本語こんばす	10:00~12:00 11:00~16:00 17:00~19:00
木曜日	●とよなかにほんご・木ひる ●多文化こども保育にこにこ ●千里にほんご(千里文化センターコラボで実施) ●外国人のための多言語相談 ●つながれ とよなか オンライン!	13:30~15:00 13:30~15:00 10:00~11:30 11:00~16:00 19:00~20:00
金曜日	●とよなかにほんご・金あさ ●多文化こども保育にこにこ ●外国人のための多言語相談 ●学習日本語こんばす	10:30~12:00 10:30~12:00 11:00~16:00 17:00~19:00
土曜日	●韓国・朝鮮のこぼとあそびのつどい ※基本、毎月第3土曜日のみ ●外国人のための多言語相談 ●みんなでにほんご・とよあさ	9:30~11:30 11:00~16:00 10:00~12:00
日曜日	●にちょうがちゃがちゃだん ●こども母語※第2,4日曜日のみ ●学習支援サンプレイス※第1日曜日のぞく ●若者のたまりば※第1日曜日のぞく ●庄内にほんご(庄内コラボセンターで実施)	10:00~11:45 10:00~11:30 13:00~15:00 13:00~15:00 13:00~15:00

今月のピックアップ

災害への備え、していますか？

2026年3月11日で、東日本大震災から15年目を迎えます。
ここ数か月は日本各地で地震が起きており、日頃から災害に備えることの大切さを改めて感じている人も少なくないのではないでしょうか。
とよなか国際交流協会では、「災害時多言語支援情報サイト」という災害情報に特化したウェブページを作成しています。
災害が起こった時の情報だけでなく、地震や台風といった災害の説明や、災害への備えについてのページもあります。15言語(自動翻訳)で閲覧ができます。これを機に、自宅や職場での備えを再確認してみましょう。

※右記二次元コードからウェブサイトをご覧ください



とよなか国際交流センターお知らせ

「こくりゅうだより」第203号(2026年3月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会
住所:〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F
(阪急宝塚線豊中駅すぐ)

開館時間:9:00~21:30 受付時間:9:00~17:30(水曜休館)
TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375
E-Mail:atoms@a.zaq.jp WEB:http://www.a-atoms.info/

多言語情報も配信しています!

SNSも随時更新中!
「とよなか国際交流センター」で検索!

→